

「...はい、先輩。アロマオイルのブレンド、作り足しておきました。
ふふっ、いっぱい使ってくれて嬉しいです」

「私だけが使うより、他の人にも使ってもらいたいと思ってたので...気にしないでください。
それに、こうやってブレンドするのもすごく楽しいですから」

「それに、先輩が落ち着けるのなら、それに越した事はありません。
あ、でも...」

「...本当は、その...前みたいに寝る前に電話出来たらいいな、と...思ってて...
もちろん、ご迷惑じゃなければ...」

「それに...電話越しだったら、私が...ASMRみたいに、囁いたりもしてあげられますし...
アロマセラピーと、2つで...先輩を癒せたらなって...」

「...先輩の声を聞いたら、私も癒されるから、一石二鳥にもなって...」
「...って、私欲張りすぎですよ。ね。
ごめんなさい、今日は色々ありがとうございました。私、そろそろ帰ー」

「先輩っ...?」

「...本当に、いいんですか?
電話も...ハグも、アロマも...これからも、しても...」

「ふふっ...嬉しいです、先輩...」
「あ...でも別に、ああいうASMRを見ちゃダメってわけじゃなくて...
たまには私にもさせてほしいな、ってだけですからね...?」

「わっ...!ふふっ、先輩がハグしてくれると、私のストレスも消えていきますね。
...ね、先輩...やっぱり、もう少し...このままでも、いいですか...?」

「えへへ...ありがとうございます。じゃあ...」

※キス10秒

「んっ...ちゅ...
んふ...ん...ちゅ、ちゅう...」

「...2人でもっといっぱい、リラックスしましょうね、先輩」